

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和元年 9 月 9 日

三田市議会議長 厚地 弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良	印
		議員名	佐 賞 尚 子	
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐賞尚子 中田哲			
視 察 先	愛知県稲沢市			
調査事項 (調査目的)	稲沢市あじさいまつりについて			
日 時	令和元年 7 月 24 日 (水) 13:00~15:00			
視察先対応者	稲沢市 経済環境部 商工観光課 課長 足立 和繁 経済環境部 商工観光課 主幹 横井 利幸 経済環境部 商工観光課 宗宮 千晶			
添付資料	・あじさいまつりパンフレット ・稲沢観光ガイドマップ ・稲沢市観光ガイドブック ・稲沢市議会の概要第 ・28回あじさいまつり事業計画(案) ・28回あじさいまつり実行委員会収支(案) ・稲沢あじさいまつり実行委員会規約 ・稲沢市市勢要覧			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	令和元年 7 月 24 日 (水) 13:00~15:00
視察先	愛知県稲沢市
調査事項	稲沢市あじさいまつりについて
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>平成 4 年に性海寺から市に対して庭園の無償借地の提案があり、これをきっかけに市は性海寺を歴史公園に指定。</p> <p>⇒災害などにも強いとされるあじさいを植え、観光名所として育てる計画を策定。</p> <p>年々来場者が増え『あじさいまつり』に発展。</p> <p>来場者は市内外から、まつり開催期間中に総勢 5 万 4 千人。</p> <p>このうち市内からの来場者は 26% と、市外からの観光客の呼び込みに成功している。</p> <p>来場者が増えるたびに近隣住民との交通トラブルが増えているが、駅からのシャトルバスなどを出すなどの対策を講じてきている。</p> <p>写真コンテストを行い、最優秀作品は次年度のパンフレットやポスターに掲載するなど参加者のモチベーションを高める工夫を凝らしている。</p> <p>こども向け、ファミリー向けのイベントなどをメイン会場で開催するも、来場者の多くは 70 歳代以上の高齢者となっている。</p> <p>また、来場者は年々増加傾向にあるものの、駐車場を無料開放する上に、入場料なども取っておらず、財政面では市からの補助金に頼っているところが大きく、今後は継続性・自立性をどう高めていくかが大きな課題となるとともに、スタッフの高齢化、地元商工業との連携、近隣駐車場対策などについても検討していかなければならない。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

会派視察 7月24日 (稲沢市あじさいまつり)

「所見」稲沢市あじさいまつり

平成30年に市制60周年を迎えた本市は濃尾平野のほぼ中央に位置し、全般的に平坦な地形であり、東西約14,6km南北約9,2kmで面積79,35km²を有しており、名古屋都心から20km圏に位置し公共交通機関で概ね10分で到着できる交通便地となっている。その他の特徴としては古くから自然環境に恵まれ、農業は稲作を中心に野菜、花き、銀杏の栽培などが盛んに行われてきている。また名古屋市の近郊という立地から他産業への転換が進む中、農業経営の規模拡大、近代化に取り組んでいる。

今回の視察項目であるあじさい祭りについては28回目を迎えており、6月1日から16日までの毎日開催とのこと。市内、市外からの観光客が増えているとのこと。

あじさい祭りが始められたきっかけは伊勢湾台風で荒れた土地に歴史公園作りを進めようとする中で、約1200年の歴史を持つ性海寺というお寺が協力し、今では90種類一万株のあじさいを楽しめる歴史公園となった。公園管理はあじさいクラブという地元有志に年間委託をしているが、しかしながらこうしたグループも高齢化が進んでいることや、有名な祭りになったため、駐車場確保の問題等の課題があるとのこと。

あじさい祭りのパンフレットも拝見したが、中小企業の協賛も多く募っており、これは職員が企業にお願いに出向き協賛いただいているとのこと、職員の努力も見られた。

チラシの配布時期など、早めの周知でこれだけの観光客を誘致できているのかと伺ったが意外と直前に配布しており、市民センター等に配置しているとのことでした。

歴史公園とあじさいをマッチングさせたアイデア、そしてそれにプラスして、あじさいフォトコンテストなど、若い人にも呼び掛けるように30歳アンダーバーの部門もつくるなど工夫をしておられた。特賞になった写真は次年度のパンフレット表紙になるなど、あじさい祭りに足を向けたくなるような事にも取り組まれている。

三田市でも様々なイベントの取り組みがされているが、継続こそが観光客の誘致につながると考える。そして同じことばかりではなく、その時のニーズを把握し開催するなどリサーチも大事であると思う。また、三田市は周知が遅い、そのイベントで人を動かせようとするなら、早めに取り組み周知の徹底をすべきであると考えます。

今回のあじさいまつりについては、有志の方の取り組み、職員の協賛をとってくる努力そして、なにより季節感が味わえるイベントであることが素晴らしいと思いました。

とても参考になった視察でありました。

文責 佐貫尚子

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和元年 8 月 8 日

三田市議会議長 厚地 弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良	印
		議員名	田中一良	
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 中田哲			
視 察 先	愛知県一宮市			
調査事項 (調査目的)	自動運転の取り組みについて			
日 時	令和元年 7 月 25 日 (木) 10 時 00 分～11 時 30 分			
視察先対応者	一宮市 議会事務局 次 長 山田均 総合政策部 政策課 課長補佐 野村秀樹 総合政策部 政策課 主 査 野末朋代			
添付資料	・自動運転の取り組みについて ・一宮市市勢要覧 ・一宮市議会概要 ・議会だより138 ・一宮市観光ガイドマップ			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	令和元年 7 月 25 日 (木) 10 時 00 分～11 時 30 分
	視察先 愛知県一宮市
	調査事項 自動運転の取り組みについて
	<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>【調査結果の概要】</p> <p>★自動運転とは</p> <p>高精度 3 次元地図と自動運転ソフトウェアにより自車位置や周囲環境を認識し、自動運転の『目』であるカメラやセンサー等を使って障害物を検知する仕組み。</p> <p>○社会的効果⇒ 1. 利用者の利便性向上。 2. 交通事故減少し安全性高まる。</p> <p>3. 最適な走行による交通流の円滑化、渋滞緩和。</p> <p>○経済的効果⇒ 1. 不要の加減速の低減、渋滞緩和による燃費向上や CO2 削減。</p> <p>2. 自動走行車を活用した新たなビジネスモデルの創出。</p> <p>★愛知県の動き</p> <p>現在の法律では運転者が乗車しない車両が行動を走ることが想定されていない。</p> <p>⇒『近未来技術実証特区』への提案 規制を緩和し、自動走行車両の実証可能に。</p> <p>⇒国家戦略特区に区域指定。</p> <p>第一段階 運転席にドライバーを座らせた状態での実験。(遠隔監視、遠隔操作)</p> <p>第二段階 無人走行車に対する社会的受容性の評価等。(周囲の理解が不可欠)</p> <p>第三段階 無人走行車を活用した新旅客、配送サービスの検証。</p> <p>技術的には、ほぼ遠隔操作なしで目的地まで到着できるところまで来ているが、細かな運転技術や、緊急停止した際の復旧作業など、遠隔監視員による遠隔操作が当面の間は、必要となるという説明があった。</p>

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

7月25日 (一宮市自動運転の取り組みについて)

「所見」一宮自動運転の取り組み

一宮市は愛知県の北西部にあり、名古屋市へ17km岐阜へ13kmとほぼ両市の中間に位置しており、地形は極めて平坦で市の北東部から南西部にかけて緩やかに傾斜している。

気候は比較的温暖で、古くから農耕が盛んに行われ、江戸時代の中頃から米麦の他に綿花の栽培が盛んになり、農家の副業として綿織物の生産が行われるようになった。

本市は中部経済圏における重要な交通拠点でもあり、市内中心部では大規模な高架等により市内交通の円滑化を図るなど、地の利を活かした工業団地も整備し経済基盤の強化や雇用の拡大により更なる発展が期待される場所である。

今回の自動運転の取り組みについては、名古屋市の取り組みの中で市内のエリア走行の協力をしている事業とのこと。自動運転とは・ハンドルやブレーキなどを人の操作なしで自動走行できる自動車の技術のことを明確にしておきたい。

愛知県が近未来技術実証特区への提案、道路交通等の規制を緩和し、自動走行車両の実証が行えるように提案をし、平成27年8月国家戦略特区に区域指定される。

自動車実証実験が28、30年に実施され、自動運転の経済効果については、不要の加減速の低減、燃費向上やCO2削減、高齢者の送迎、観光地での活用などがあげられている。

実証実験では自動車に何か起きた時の為に遠隔操作と、その車を前後に挟んで走行します。車の前に障害物があった場合には認識するが、その障害物を避けては走行できないとの事

また、雨や、雪も障害物と認識するとのことで、そのために渋滞等をひきおこしてしまう事もあるのでは・・・と考え、少々心配になります。こうした事から説明の中では課題が多いとのこと、また、電波障害が起きた時には更に課題があると説明があった。

たまたま、一宮にはKDDIの電波塔5G等があり、実験が行うことができた大きな要因でもあり、電波塔などのインフラの整備ができていた所では、実験ができないのも課題であり、三田市から考えると郡部に高齢者を送迎できる自動運転ができればと考えるが、電波塔の整備など相当の費用がかかることが課題であると感じた。

今後は2030年には国は100か所の公道で実験を進めるとのことであるが、まだまだ時間がかかると感じた。三田市はこうした取り組みすら行われていないので時間は相当かかるのではないかと実感した。メディアでは日々、自動運転の実施を報道しているが、思うほど簡単なことではなく難しい課題が山積していることが理解できた。

バスルートといったような決まったコースを走ることが、まだ身近に取り組めることであるとの説明も頂いたが、こうした取り組みは地方が一番必要としていることであり、設備の費用等が国の補助などでスピード感をもって取り組めるように進んで欲しいと感じた。

公共交通の問題は三田市において喫緊の課題であるため、一日も早い研究、取り組みを進めていただきたいと、この度の視察で感じたことであります。

文責 佐貫尚子